O1-033

先天性心疾患手術を受ける乳幼児の母親の心理的準備と準備行動のプロセス

中水流 彩、中村 伸枝、佐藤 奈保

千葉大学　大学院　看護学研究科

【目的】
医療技術が著しく向上した現代、先天性心疾患手術では事前に具体的な手術日程を決定することが難しく、子どもと家族は、在宅生活の中で不明瞭な手術日程に向けて準備を進めなければならない。本研究の目的は、先天性心疾患手術を受ける乳幼児の母親が手術待機期間中に行う心理的準備と準備行動の特徴およびそれらに影響を与える要因を明らかにし、看護の示唆を得る事である。

【方法】
研究デザイン：質的記述的研究調査対象：先天性心疾患手術を受けた乳幼児の母親調査期間：2015年６月から10月調査場所：X県内の小児専門病院調査方法：本研究では手術待機期間を診断時より手術までの期間と定義し、手術待機期間中の母親の思いと行動のプロセスについて半構造化面接を実施した。母親の基本情報や家族構成について質問紙調査を実施した。分析方法：面接内容より逐語録を作成し、「心理的準備」と「準備行動」に関するコードを抽出した。手術待機期間は３期もしくは４期に分類し、期別に整理したコードを類似性よりまとめて〈サブカテゴリー〉、《カテゴリー》を生成した。さらに、先行研究よりそれらに影響を与える要因を導き出した。分析は、小児看護研究者２名のスーパーバイズを受け妥当性と真実性の確保に努めた。倫理的配慮：所属機関および調査施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】
対象者の背景：研究参加者は、先天性心疾患手術を受けた乳幼児の母親11名であった。子どもの疾患は複雑心奇形から心房中隔欠損を含め、手術時年齢は生後４ヶ月～５歳11ヶ月であった。５例は段階的手術に該当し、４例は染色体異常を併せもっていた。また、４例は胎児期、５例は新生児期、２例は乳幼児期に診断を受けていた。母親の心理的準備と準備行動、それらに影響する要因：母親の心理的準備と準備行動は、診断の受容から始まり、母親は病気の情報を収集する中で手術の可能性を認識していた。手術宣告の後は日程予測がつかない状況でもタイミングを逃さないように準備を行い、入院後は必要性を強く認識しながらも大きな不安を抱え、医療者にお任せすることで手術に臨んでいた。段階手術では、今回の体験や思いをもとに次期手術の準備を進めていた。それらの過程は、診断時期、心疾患症状の程度、治療経過、染色体異常の存在、子どもの年齢に影響を受け、相違がみられた。

O1-034

エコチル調査詳細調査の医学的検査採血場面における2歳児の反応と保護者の満足度

岩上 浩美、佐藤 拓代

大阪府立母子保健総合医療センター　母子保健調査室　エコチル調査室

【目的】
エコチル調査参加者の約5％に詳細調査が行われ、医学的検査では、身体計測VS測定、臨床心理士による精神神経発達検査、小児科医師による視診問診及び4mlの採血を行っている。環境省の委託を受け大阪ユニットセンターでは当センターが担当し、採血前に、看護師によるICが得られた児には無痛テープを貼り、子どもが泣くことの意味を説明し、採血直前のプレパレーションはCLSが担当し、ディストラクション用玩具を決め、抱っこの練習を行っている。採血場面では、DVDや絵本・玩具等を使用して、子どもの目線をCLSに集中させ、医師が採血をするなど、チームで連携して実施している。無痛処置を含めた援助や工夫が子どもの不安やストレスを軽減したか、保護者はどう感じたかを把握し、児と保護者の満足度の高い支援について検討することを目的とする。

【方法】
2014年4月～2015年1月に実施した183名（男児92名　女児91名。年齢は1歳11か月～2歳3か月）を対象とし、採血行為を前・中・後の3期に分けて子どもの反応を観察評価し、保護者に全国共通の無記名アンケートを行った。なお、エコチル調査は環境省等及び当センターの倫理委員会の承認を得て実施している。

【結果】
183名の保護者から183件の回答が得られた。無痛処置の状況から、A群（無痛処置実施）153名、B群（無痛処置後20分以内に除去）10名、C群（無痛処置なし）20名に分けて検討した。採血前に「泣かなかった」のはA83％、B80％　C100％で、採血中は「少し・ずっと泣いた」がA52％、B80％　C35％となったが、採血後はA45％、B70％　C25％と減少した。採血前・中・後のすべての場面で「泣かなかった」のは、A46.4％、B20.0％、C65.0％であった。保護者が「満足」「やや満足」と回答した項目は、検査説明98％、気のそらせ方96％、無痛処置79％、穿刺時間の長さ79％であった。

【考察】
児の45.9％が一切泣かなかったこと、「検査説明」・「気のそらせ方」に関する保護者の満足度が高いことから、本来なら痛みや恐怖を伴う採血という行為であるが、無痛処置を導入することに加えて、医師・看護師・CLSが連携して子どもの不安やストレスを軽減する支援を行ったことにより、怖い辛い痛い採血の経験が、成功体験へと変化させられた可能性があると考えられた。今後も満足度の高い採血を目指して改善を続けていきたい。

Presented by Medical*Online